

活動のキーワード

- ① 森林保全 ② 再エネ事業 ③ 環境保全と村の再生

発表内容

姉川の上流域を守り水源の里を保全して、豊富な水資源を確保出来るように地域ぐるみで、様々な活動をして維持存続を目指していきます。

少子高齢化が目立つ当地では、人口減少で過疎化も著しく河川の荒廃、耕作放棄地の増加、森林の荒廃、空き家の増加、が年々目立ってきました。放置すればここ数年でゴーストタウンになります。

- ① 豊富な水資源を確保出来るように、山林の手入れをして広葉樹の伐採と炭焼きによる木炭の生産、薪作り、植樹などで次世代に地域を繋げられる活動をしていきます。
- ② 人口減少を補うため自費で空き家を改修し、移住者を増やしています。現在、20戸中5戸の家に移住して頂き、持続可能な村づくりとともに、炭焼き体験、ソバ打ち体験、薬草ビザづくり体験などのイベントや村の行事にも貢献して頂いています。
- ③ 耕作放棄地を営農組合で管理して水稻耕作をしたり、営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）の設置と山菜の栽培と販売で有効活用をし、活性化を図っています。
- ④ 川の草刈りや雑木の伐採をして、河川の保全活動により風光明媚な景色づくりを行っています。

活動中の川や水辺の名称

一級河川 姉川（上流域） （米原市 甲賀 甲賀集落）

活動内容

姉川の上流域を守り水源の里を保全して、豊富な水資源を確保出来るように地域ぐるみで、様々な活動をして維持存続を目指していきます。

よいところ探しキーワード メモ！



炭焼き・薪割り体験ツアー

奥伊吹・東草野 炭焼き・薪割り体験ツアー

■集合場所 甲賀集会所 (滋賀県米原市甲賀606)

■定員 10名程度 (先着順・要事前申込)

■留意事項

- *新型コロナウイルス対策の実施 会場での対応
- ・広い会場で行い、隣人との間隔を空けるなど、密集、密接を避けます。
- ・野外での体験になります。・受付で手指のアルコール消毒と検温を行います。

参加者へのお願い

- ・密接時にはマスクの着用をお願いします。・軍手や手袋、作業着等は各自でご用意ください。

■行程

- 10:00 現地集合・説明、作業開始
- 12:00 午膳の作業終了・昼食・交流
- 13:00 火入れ作業後 終了・解散

■主催 東草野炭焼き保存会

■交通アクセス

●お車でお越しの場合

(伊吹方面から)

- 米原IC①国道7号②色見交差点③
- 市道40号 (米原ICより30分)

(伊吹方面から)

- 米原IC①国道7号②色見交差点③
- 市道40号
- 市道40号
- (米原ICより30分)

(各立寄りから)

- 長ヶ原IC①国道965号②勝川区着点
- ③伊吹交差点④市道40号
- (伊吹ICより30分)

※道路状況により、変更時の変更の可能性があります。事前に確認をもちて頂くください。

●バスでお越しの場合

- ①(伊吹IC) 伊吹ICから、近江鉄道バス(伊吹山田口行)に乗車(8:45乗)
- ②(伊吹IC) 伊吹ICにて、「伊吹山田口」バス停で下車(8:55)
- ③(伊吹IC) 伊吹ICにて、「伊吹山田口」バス停で下車(9:10乗)
- ④ 徒歩すぐ

FAX参加申込欄 (メール S.noritomo@gmail.com)

FAX0749-59-0354

申込締切 令和4年8月21日(日)

参加人数 (先着順) 大人(49歳以上) 子供(4-9歳) 幼児(3歳以下) 人 人 人

代読者名 氏名(姓) 住所(〒) 電話番号()

ご住所 〒 交通手段 車・バス・その他()

おのり 参加費 1,500円 同

メールアドレス(お好み)

夏原グラント支援事業
米原市地域創造支援事業

・森林の環境保全と広葉樹のエネルギー化
・文化の継承と地域の活性化を
・楽しみながら活動しています

スミヤキ マキワリ

炭焼と薪割体験ツアー in 米原市甲賀

2022年8月28日(日) 10:00～

郷土の美味しいお昼ご飯付き!

内容

午前
・炭窯の火入れ体験
・薪割り機を使った薪割り体験
お昼
・郷土の美味しい屋ごぼん
午後
・解散 (希望者 徹夜の火番)

参加人数

10名(先着順)
お土産付き
・炭(スミ) 約5kg
または
・薪(マキ) 2束(35～40cm10本程度)

集合場所

米原市甲賀集会所
(奥伊吹スナ一湯10km手前)
※裏面にMAPありませう!

参加費

大人(中学生以上) 3,000円(昼食付)
小学生 1,500円 同

詳細は裏面とご確認ください! →

主催 東草野炭焼き文化保存会

A-3 小さな自然再生ネットワーク

活動のキーワード

- ① 自然からの恩恵
- ② 川あるき
- ③ 親水と親睦中ノ井川のホタルの生息域を拡大する

発表内容

大宝小学校の校庭と校舎の間を流れる中ノ井川にホタルが生息していて、ホタルの生息エリアを広げるため、毎月第4日曜日に「川をあるいています」

川をあるくことで、次の効果があり、以前に比べ小魚の生息数が増えた感じでした。

- ① 石や川底に付着している藻が流れ、川底の水生物に酸素が行き届きます。
- ② 目についたプラごみや破碎ゴミを拾い、琵琶湖に流れていくのを防いでいます。

小魚が増えたように、ホタルも早く戻ってこないかな…。

活動中の川や水辺の名称

一級河川 中ノ井川 (栗東市 大宝神社付近)

活動内容

中ノ井川や蛇が池を中心に親水、自然観察のエリアを拡大する

よいとこ探しキーワード メモ！

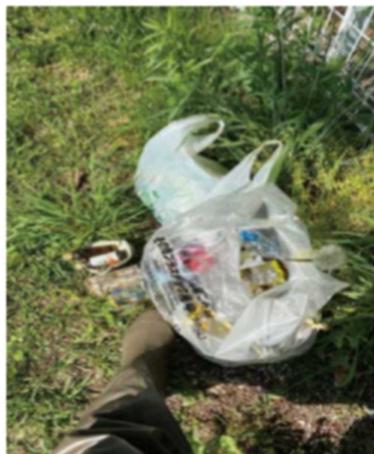


自然を活かした街づくり

2022年8月27日(土)
小さな自然再生ネットワーク

■取り組んで来たこと。

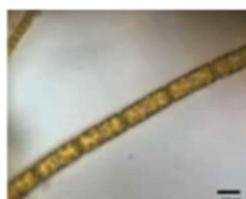
1. 原則毎月第4日曜日に川をあるき、川床を柔らかくし、上流から流れてくるゴミを回収する。



2. いつのまにか発生した藻を歩いて流す。
(2021-1-18)



琵琶湖博物館の協力を得て、藻の種を特定できた。



タルケイソウ



フナガタケイソウ

■ 今後の取り組み

1. 農業委員会の理解が得られず、水路に水が流れることはないが、清掃活動をする人々と協力する



2. 時々現れる白濁を調査する

代掻きの水が流れると言われたが、どのような経路で？
2021年12月9日にも発生。この時期に代掻き？



3. ホタルが戻り、川辺で親水が出来るように、蛇が池に水が満たされ、鳥や人々の憩いの場になるように活動を広げていく...

A-4 新大宮川を美しくする会

活動のキーワード

- ① わんわんパトロール
- ② ポイ捨て・不法投棄ゼロ
- ③ ゴミ拾い

発表内容

2016年の夏、その年に河川愛護団体「新大宮川を美しくする会」を立ち上げた現在も会長を務める私・山本克也は、愛犬・豆柴の福（ふく）と毎日散歩する橋の上に、ゴミが散乱する残念な光景を目のあたりにしました。その光景は、次の日もその次の日もそのままでした。「こんな酷い状態なのに、誰もゴミを拾うとしない。そういう私は・・・。」その日から、毎日の散歩時の私のゴミ拾いが始まりました。その後、散歩コースもおよそ1.7キロメートルに延び、コロナ禍にもなり、6年近くを経て、先日2022年7月15日に、初めてその日のポイ捨てゴミがゼロになりました。私のゴミ拾い活動を始めた頃の決意とポイ捨て・不法投棄ゼロまでの道のり、今後の課題、目標などを発表することで、多くの方の川づくり、まちづくりのご参考にしていただければ幸いです。

活動中の川や水辺の名称

新大宮川（一級河川 大宮川、足洗川の下流部）

活動内容

新大宮川とその周辺的环境・美化清掃活動

よいとこ探しキーワード メモ！





2016年8月、
あの日から始まった。

わんわんパトロール
新大宮川を美しくする会
shinomiya-gawa@gmail.com
<https://ameblo.jp/shinomiya-gawa>



B-1 おおきにトビケラさんプロジェクト

活動のキーワード

- ① デザイン
- ② 行動変容
- ③ 川と生きものとの豊かな暮らし

発表内容

私たちは昨年度春の授業で宇治川で大量発生するトビケラについて着目し、トビケラの持つ価値と不快被害のギャップから良い情報を伝えるためにプロジェクトを立ち上げ、活動を行ってきました。

トビケラは不快害虫と呼ばれています。

しかし、トビケラは直接的に私たちに害を与えることはなく、幼虫時代に植物プランクトン由来の有機物を食べ、川を綺麗にする役割を持っています。

また、水生生物による川の水質判定表では綺麗な水に住む生き物として判定されているため、トビケラのいる川は綺麗である証明になります。

私たちは大学での学びであるデザインを使い、宇治市民の方々にトビケラについて知ってもらうきっかけの場を作り、行動変容を目指しています。

活動中の川や水辺の名称

一級河川 宇治川 (京都府)

活動内容

環境のイベントに参加したり、イベントを主催、展示開催など、知る機会の場を作る。漫画冊子やグッズを制作し、身近なものから意識を持たせる。

よいところ探しキーワード メモ！



《活動》

不快害虫と呼ばれるトビケラの価値を伝え、川と共に生きる私たちに
もたらしてくれる豊かさを感じてもらうことをデザインを通して伝える

不快害虫とは？

嫌味や気味が悪いなど不快な感じを与える虫のこと

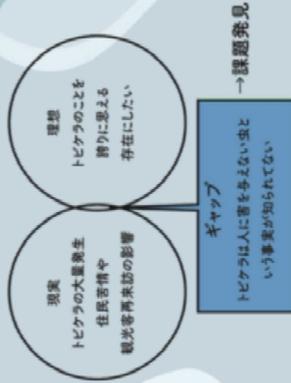
①ヒアリング

虫がどのような特性を持っているのか、地域でどのような被害を出しているのか、対策などを調査する



②課題を見つける

ヒアリングを経て、虫の価値を見つけ
被害が出ている現実と私たちが叶えたい
理想を照らし合わせ、そこに生まれた
ギャップを問題として捉える



③虫の認知活動 『おおきにとびけらさん』

不快な虫に對して自ら調べようと思ったりすることがない
いのではと考える、私たちは虫の特性を知り、嫌なイメージから良いイメージに変えていくことを目標にし、その
きっかけづくりをすることを始める



虫が私たちの生活に豊かさをもたらしてくれることに感謝するために『おおきにとびけらさん』という羽の部分
ハートに表現し、人々に親しみやすいマークを作成
このマークを見たときに活動を思い出し出してもらえ
ることを目的に作成

④発表

地域のイベントへ参加や、自
らイベントを発足し、発表を
行い、地域に住む人々に知っ
てもらおう機会を作る



⑤冊子やグッズの作成

読みやすい漫画冊子やロゴの入ったグッズを
制作し、手に取ってもらいやすくし、活動を
知ってもらおうきっかけをさらに作る



おおきに とびけらさん

成安造形大学
総合領域

西村 清美
高木 琉音
中西 若菜



大量発生が問題視されているトビケラ。川の付近に住む人々に気持ち悪いという印象を与えています。
しかし虫たちは私たちに害を与えることは一切なく、川と共にくらす私たちの生活に良い影響を与えてくれています。水の中で過ごす幼
虫時代に植物プランクトン由来の有機物を食べ、水を綺麗にしてくれています。これらの有機物が増えてしまうと水は緑色になり汚くなります。
また、水の中に住む魚の餌になったり、羽化し外へ飛ぶと鳥の餌となったりする存在にもなっています。